

OMRON

健康長寿産業連合会 WG3 健康経営先進事例セミナー

# オムロンヘルスケアの 健康経営

～健康状態・生活習慣の可視化、PHRの活用～

2024.11.1

オムロンヘルスケア株式会社  
経営統轄部 中村 俊也



# オムロングループ

センシング&コントロール+Think のコア技術を元に、オートメーションのリーディングカンパニーとして多岐にわたる事業を展開。（130ヶ国）

## ① 制御機器事業 48%

工場の自動化により、世界のモノづくり革新をリードするオムロンの主力事業  
(センサ、コントロール機器、ロボット、安全機器など)



## ② ヘルスケア事業 18%

家庭での健康管理から医療現場まで健康な暮らしをトータルにサポート  
(電子血圧計、心電計、体温計など)



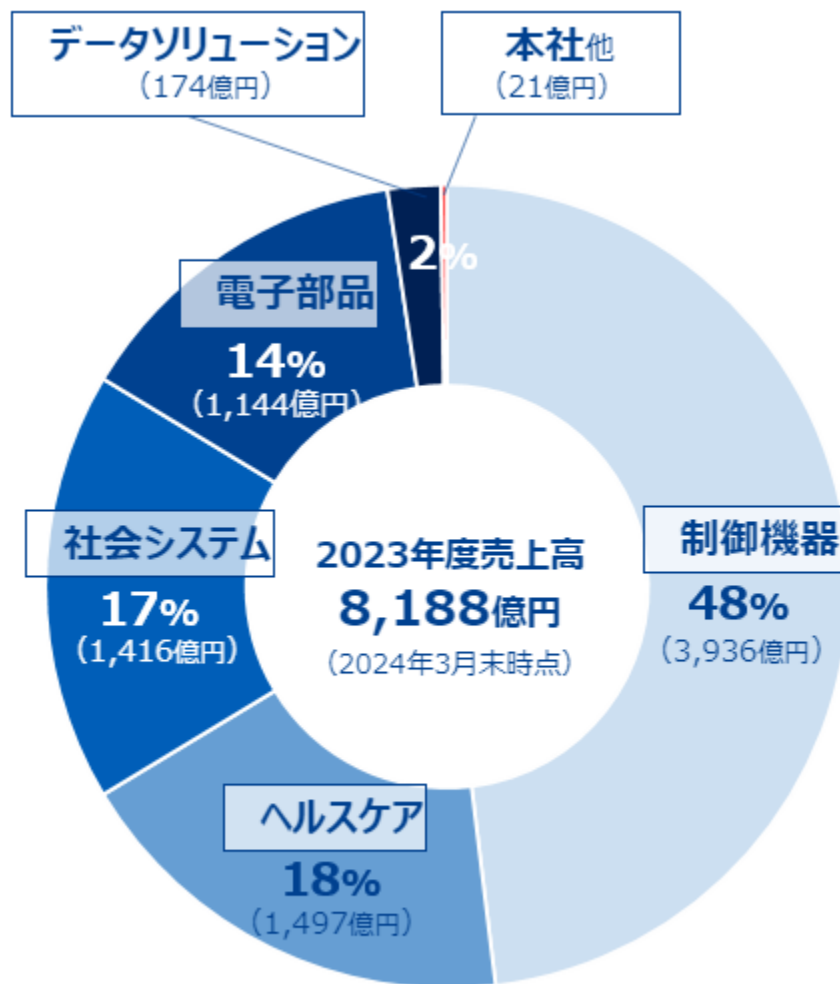
## ③ 社会システム事業 17%

快適で安全な社会生活を目指し社会インフラのための多様なシステムを提供  
(自動改札機・券売機、太陽光発電用パワーコンディショナ・蓄電システムなど)



データソリューション  
(174億円)

本社他  
(21億円)



## ④ 電子部品事業 14%

幅広い分野で人と機械を快適につなげる先進的な電子部品を提供  
(リレー、スイッチ、コネクタ、センサーなど)



## ⑤ データソリューション事業 2%

各事業の現場データを基軸としたソリューション開発および事業推進  
(デバイス、コンポーネント、社会システム、ヘルスケアデータの活用など)



オムロン ヘルスケア (株)

# データソリューション事業

モノだけでなく、各事業の現場データを基軸としたソリューション開発、事業推進の歴史がある。



自動改札機



現金自動支払機



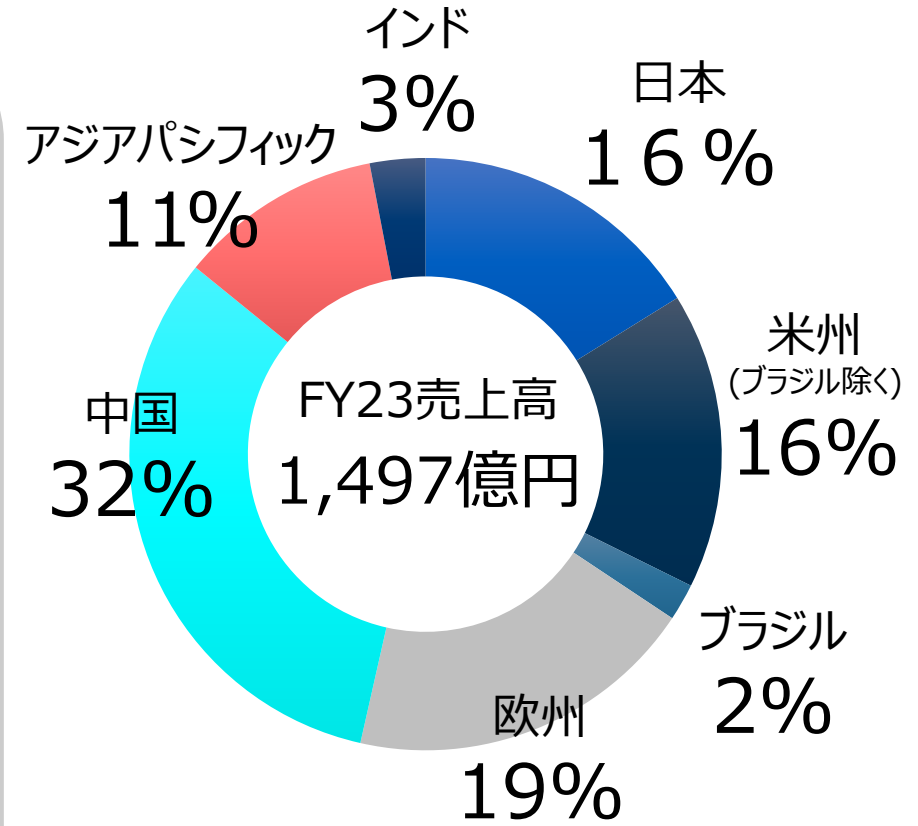
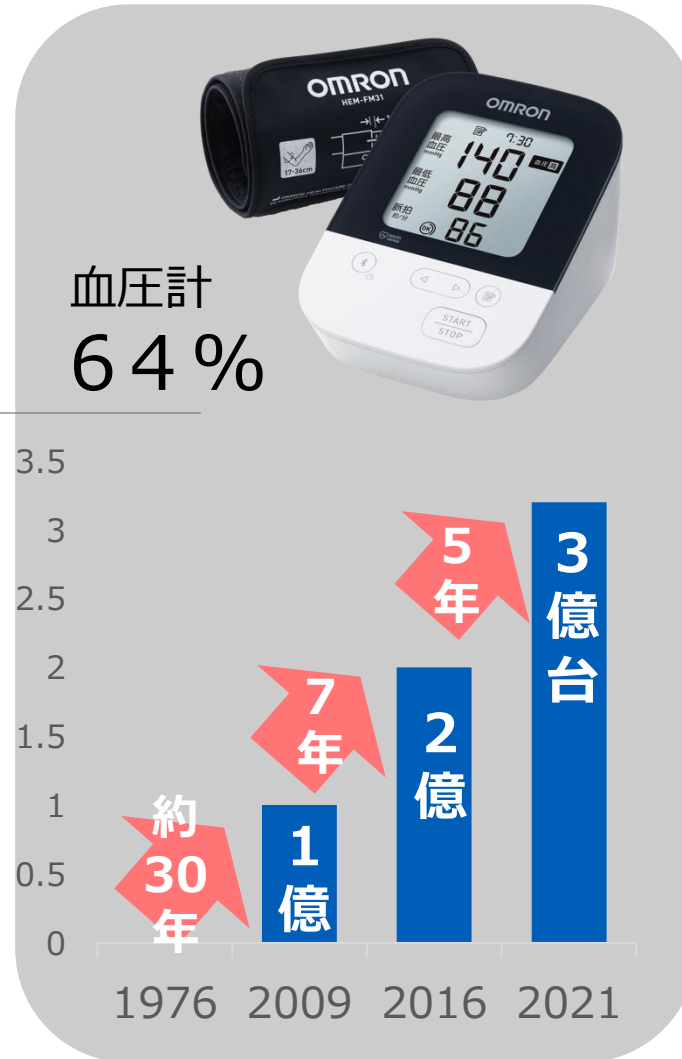
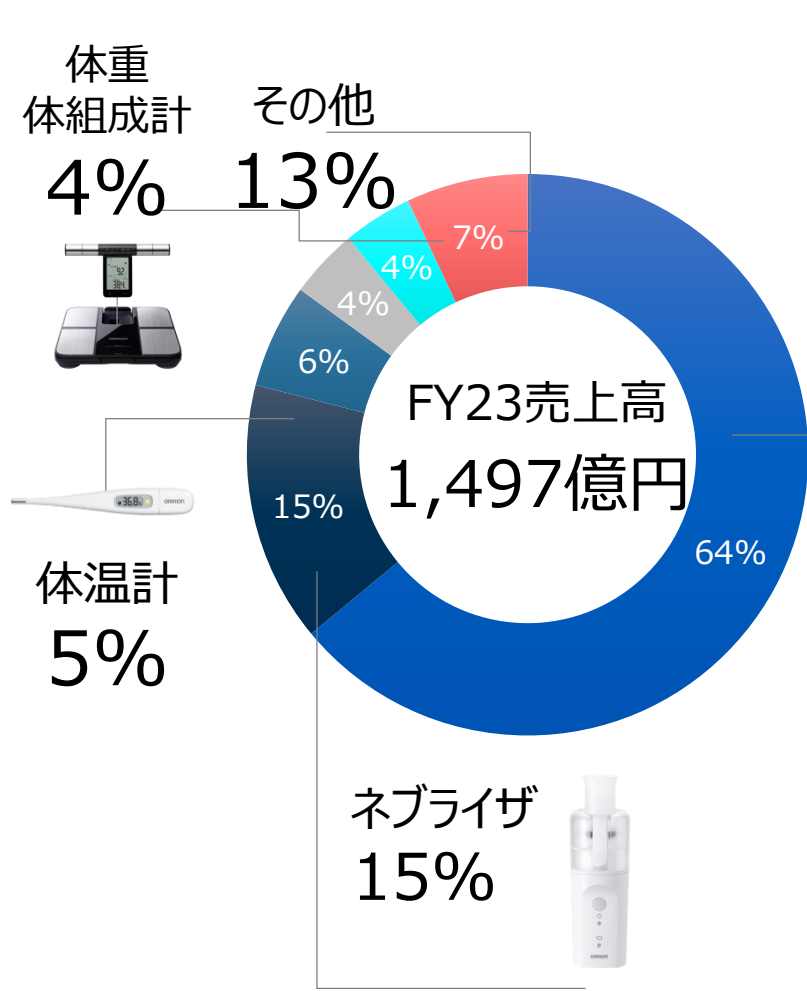
プログラマブルコントローラー



電子交通信号機（'64京都市河原町）

# オムロンヘルスケアについて

血圧計、心電計の循環器事業に強み。特に血圧計は累計3億台、グローバルシェア 約50%。



## Going for ZERO

### 予防医療で世界を健康に

「病気を早期に発見する」、「重症化を防ぐ」、「再発を防ぐ」。

私たちは、今まで培ってきたセンシング技術と  
医療分野での知見を活用し、世界の死亡原因の上位を占める  
循環器と呼吸器疾患、  
日常生活に大きな影響を与える痛みの3分野で、  
新しい予防医療を作り上げます。



# 循環器事業ビジョン

## ZERO EVENTS ゼロイベント

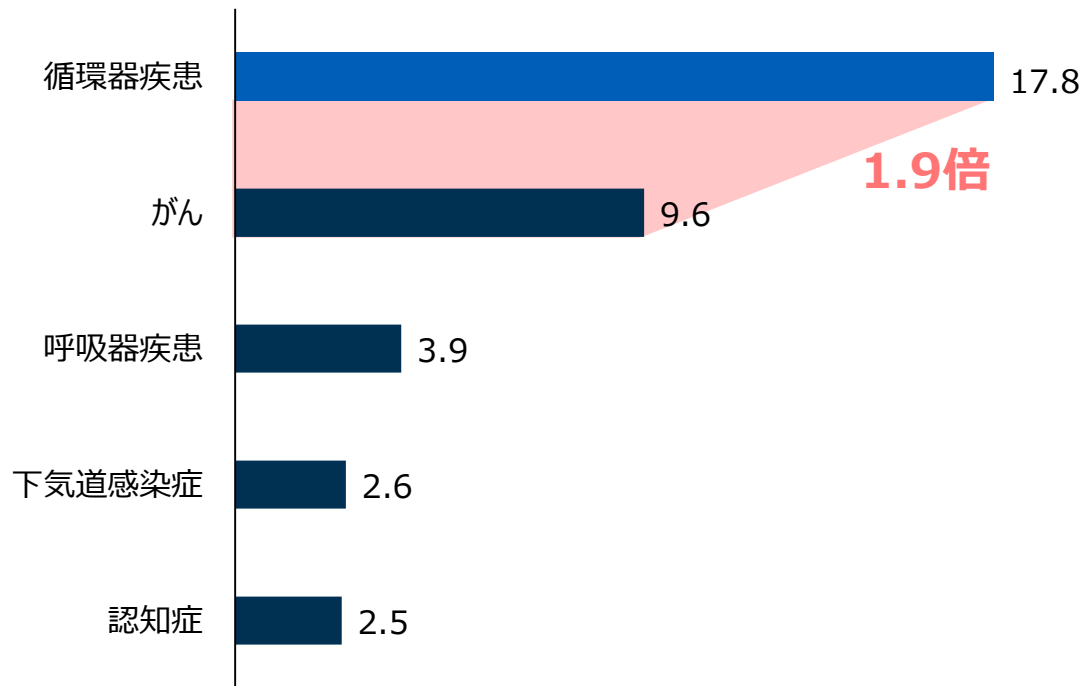
脳卒中や心筋梗塞など、生死につながり寝たきりなどの原因となる疾患（イベント）をゼロにすること。私たちは、家庭での健康管理を身近・簡単にする機器やサービスによってイベントの誘因となる「高血圧」、「不整脈」を早期に発見し、生活習慣の改善や治療を支援することでイベントを未然に防ぎます。そして、患者や患者を支える家族の負担を減らし、健康で充実した生活の実現に貢献します。

# Going for ZERO（循環器）の背景

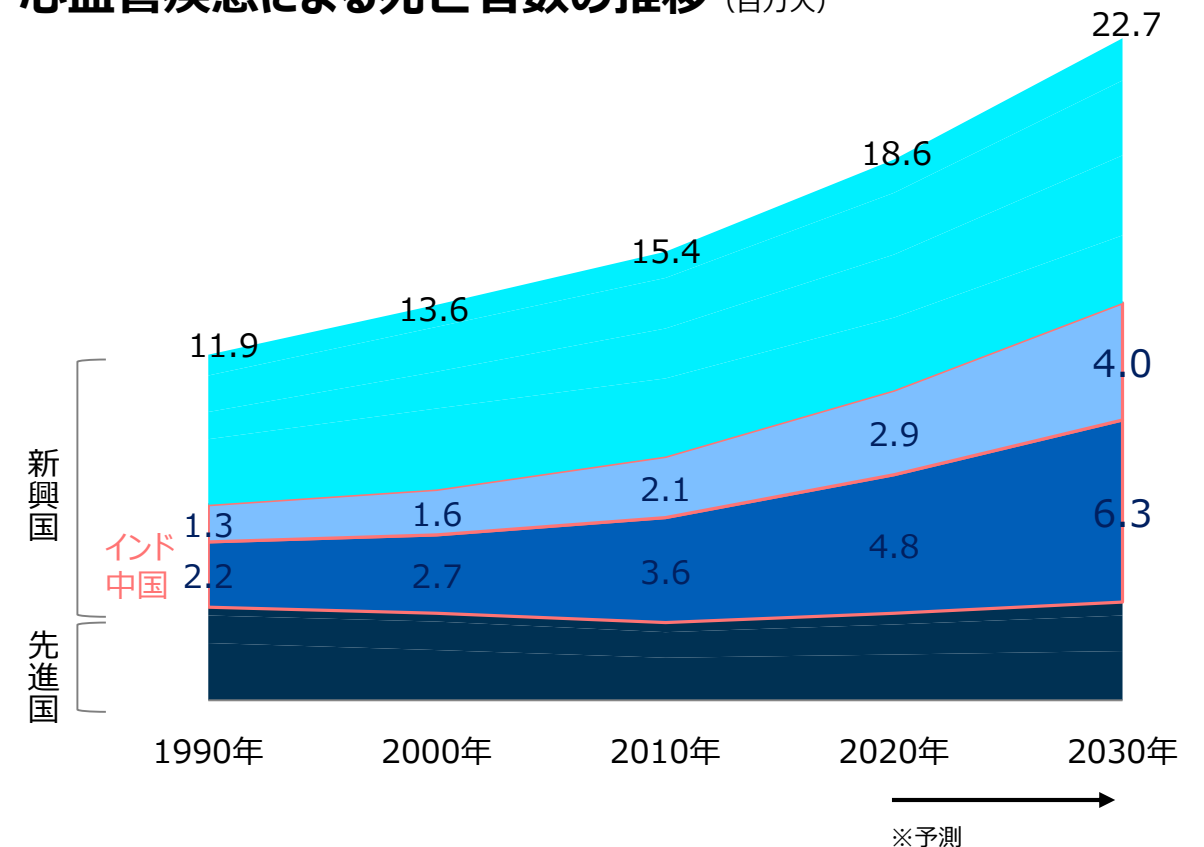
世界の死亡原因（非感染症）の第1位は、循環器疾患。

心血管疾患による死亡者数も、中国・インドを筆頭とした新興国を中心にさらに拡大する見込み。

## 2017年 疾患別死亡者数（グローバル）（百万人）



## 心血管疾患による死亡者数の推移（百万人）



出典：Global Burden of Disease Collaborative Network 2018

※予測値は2018年までのトレンドに基づき自社で算出

# OMRON Connect 概要

モバイルヘルスケアをサポートするデバイス連携アプリ

健康管理をもっと簡単に。 血圧計、体重体組成計、活動量計、体温計など多くの通信機能付きデバイスが対応。  
非医療領域（家庭計測）のデータリンクのしくみの構築と普及、そこから得られるデータの利活用に注力。  
日本を始め世界で、RPMやオンライン診療等をサポートし、心血管疾患イベントの予防に活用され始めている。

測る



音波通信  
\*体温計のみ

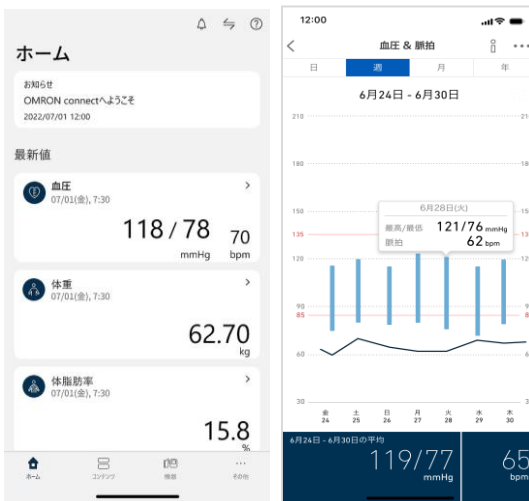
データ転送



Bluetooth



アプリで確認



MAU  
207万  
(国内71万)

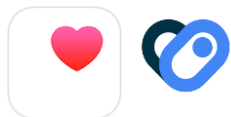
※ ダウンロードだけなら、1467万  
※ FYY24.9実績

通信血圧計

449万台/年

※FY 2 3実績

国内外の様々なヘルスケア アプリとデータ連携



アプリの評価 4.4/5 7.9万件 ★★★★★

※App Store 2024/9/30時点





# OMRON Connect 対応機器

## 上腕式血圧計

心電計付



HCR-7800T



HCR-7501T



HCR-750AT



HCR-7206T



HEM-7281T



HEM-7600T



HCR-7601T

## 手首式血圧計



HEM-6233T



HEM-6231T2

## 携帯型心電計



HCG-8060T



HCG-8010T1

2024年2月20日  
発売予定

## 体重体組成計・体重計



KRD-608T2



HBF-228T



HBF-702T  
(部位別測定)



HN-300T2  
(体重計)

## 体温計



MC-6800B  
※音波通信



MC-6810T2



MC-652LC  
(婦人体温計)

## パルスオキシメータ



HPO-200T3



HPO-300T

## 活動量計

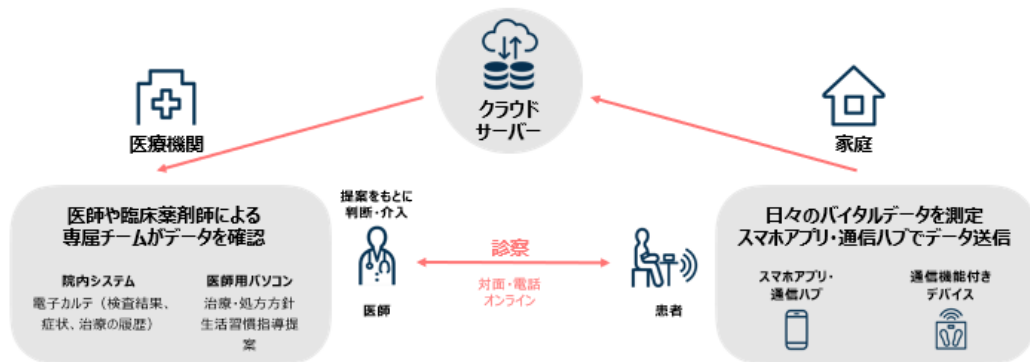


HJA-331T

# Going for ZERO 遠隔診療サービス（RPM） 取組事例

家庭で測定した血圧データを医師と共有し、よりよい高血圧治療を目指す遠隔診療サービス。  
医療保険制度や健康課題のなど、各国のヘルスケア環境に合わせたサービスを展開。  
日本を始め世界で、RPMやオンライン診療等をサポートし、心血管疾患イベントの予防に活用され始めている。

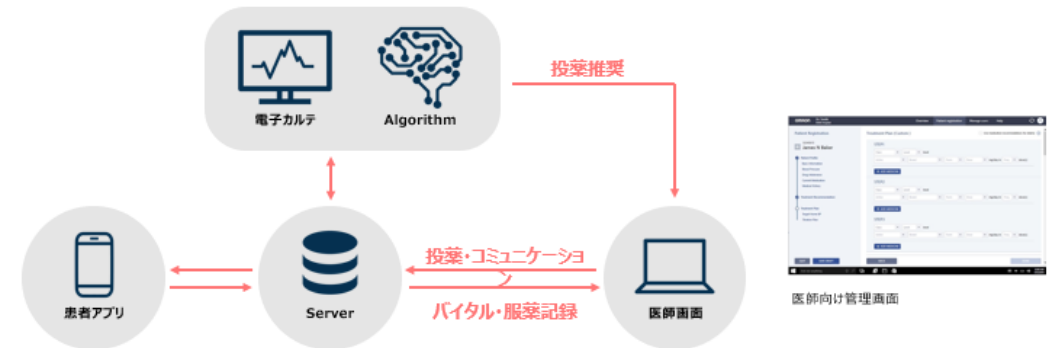
## Vital Sight (US)



遠隔診療の保険料支払いを初めて認可。  
家庭で測ったバイタルデータを、病院の電子カルテに送信、  
医師や看護師と共有。



## Hypertension Plus (UK, NHS)



「家庭での測定データを活用した遠隔診療、投薬提案支援サービス。  
オックスフォード大学と協働で開発した診療支援アルゴリズムを実装し、  
医師の診療負荷の軽減を実現。」



# オムロングループの健康経営

企業理念の実践を通じて社会的課題の解決を目指すには、イノベーションの創出が不可欠。そのため多様な人財が、活力に満ち溢れ、ポテンシャルを発揮することが重要で、会社の発展にとっても欠かせない社員の健康の維持向上に向けて、「健康経営®宣言」を制定。

「イノベーションを起こす人と組織をつくる」

「心身が健康で、社員が自分の人生を楽しんでいる状態をつくる」

「オムロンを卒業しても社会で活躍し続ける社員でいっぱいにする」

「人的創造性」\*の向上を目指した人的資本経営へと進化



社名		選定・認定状況	
オムロン(株)	上場	5年連続 銘柄 8年連続 ホワイト500	'17-'23 '17-'24
オムロンヘルスケア(株)	非上場	8年連続 ホワイト500	'17-'24
オムロンソーシャルソリューションズ(株)	非上場	3年連続 ホワイト500	'22-'24
オムロン太陽(株)	非上場	優良法人認定 (中小企業部門)	'24

## オムロン健康経営宣言

私たちオムロンは、世に先駆けたチャレンジによる、新たなソーシャルニーズの創造を目指します。そのためには、オムロンで働く社員の健康が経営の基盤と考え、皆が豊かで充実した生活を送れる環境をオムロン一体となって作り上げていきます。そして、笑顔と活力にあふれる健康的な職場を創造し続けることで、イノベーションを起こし、様々な社会的課題の解決に取り組んでいきます。

代表取締役社長 CEO

辻永順太



# オムロンヘルスケアの健康経営

経営者メッセージ

## 従業員の健康から社会の健康へ

オムロングループでは、企業理念の実践を通じて社会的課題の解決を目指しており、そのためには、経営の基盤となる従業員一人ひとりの健康が重要だと考えています。

オムロンヘルスケアでは「Going for ZERO～予防医療で世界を健康に」を長期ビジョンとして掲げています。**従業員一人ひとりが健康経営の取り組みに積極的に参画して自らビジョンを体現し、それを社会に示していく**ことで、健康寿命の延伸、予防医療の実践という健康文化の創造を実現していきます。

## 健康経営方針

私たちは、心身ともに健康で、好奇心に満ち溢れ、ワーク・ライフ・バランスのとれた毎日の中で、失敗を恐れず元気にチャレンジし続け、お客様が笑顔になる商品やサービスを創造します。



代表取締役社長 岡田歩

# 健康経営方針と重点テーマ

提供するサービス、ソリューションに自らが積極的に取り組む。

私たちは、心身ともに健康で、好奇心に満ち溢れ、ワーク・ライフ・バランスのとれた毎日の中で失敗を恐れず元気にチャレンジし続け、お客様が笑顔になる商品やサービスを創造します。

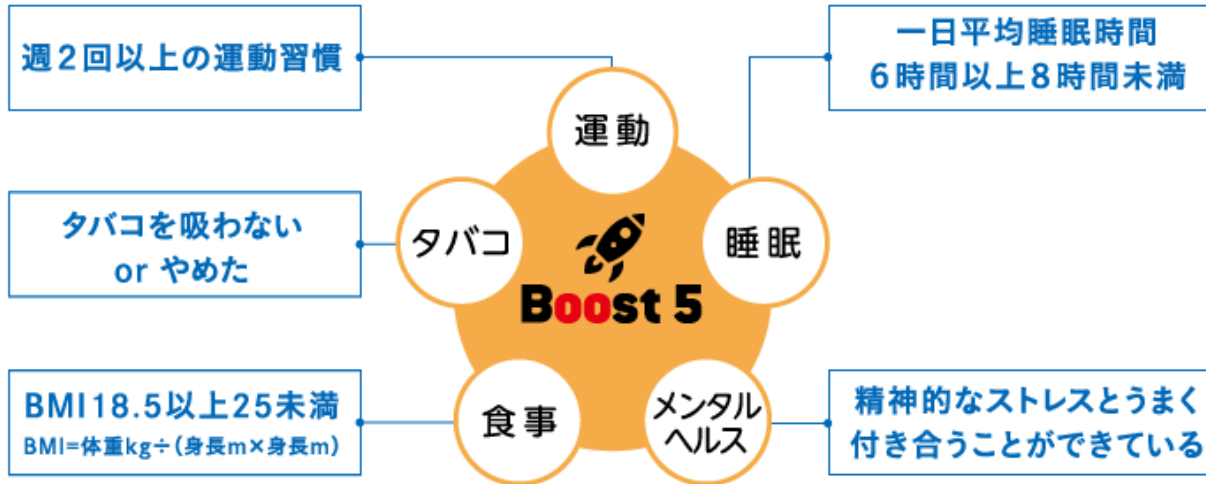
## 重点テーマ

	ゼロイベントの実現	フィジカルヘルス	メンタルヘルス
重症化予防	血圧適正化	健康リスク者の減少	高ストレスの改善
健康増進予防	血圧測定の習慣化	健康増進行動の実践	いきいき職場の実現

# オムロンの健康経営施策

＜オムロングループ 共有の健康指標＞

## Boost5 : 健康づくり応援指標



社員自身が結果を把握できる。浸透度は9割越え。

主な取組みと経年推移		
19年	タバコ	全社禁煙化／卒煙マラソン
20年	運動	ラジオ体操の普及促進／オンラインフィットネス
21年	メンタルヘルス	セルフケア実施イベント／Eラーニング
22年	食事	オンラインセミナー／体重測定チャレンジ
23年	運動	運動実践イベント／ウォーキングイベント

＜オムロンヘルスケア独自の取り組み＞

## オムロンゼロイベントチャレンジ



### ゼロイベントの実現

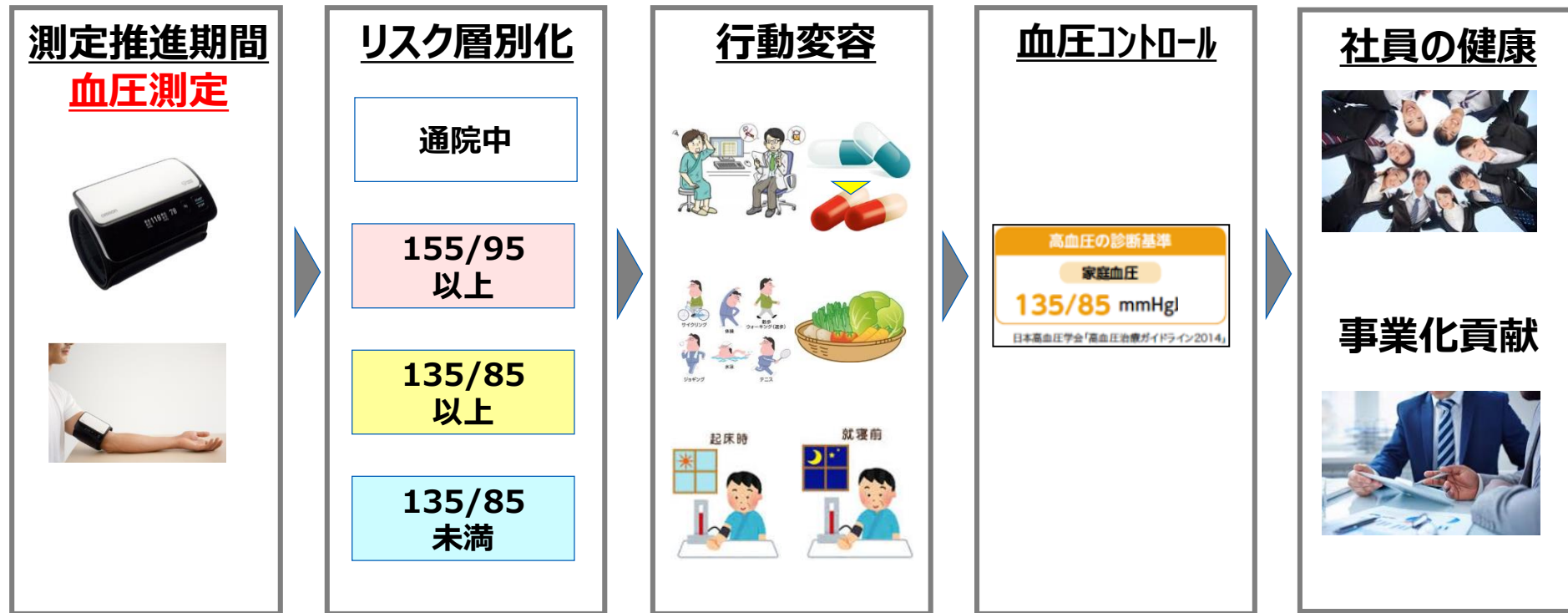
- ・オムゼロ ウォーク
  - ・血圧測定習慣
  - ・卒煙チャレンジ
- 行動変容の実践

生活習慣病予防のリーディングカンパニーとして、「脳・心血管疾患の発症をゼロにする」事業ビジョンに掲げる。

この実現に向け、「社員一人ひとりが、どんな小さなことでもいいから、健康のために、何かを始めること。何か行動を変えること。そして、オムロンヘルスケア社員全員で血圧の最適化を目指すこと。」という社長メッセージのもと、2017年度から取り組んでいる。

# ゼロイベントの実現 オムロンゼロイベントチャレンジ

『ゼロイベント』を目指す私たちは、自ら家庭で血圧を測定し、全員で現在そして将来にわたる適正な家庭血圧（135/85mmHg未満）の維持改善にチャレンジ。



# フィジカルヘルス SUMO & ウォーキング



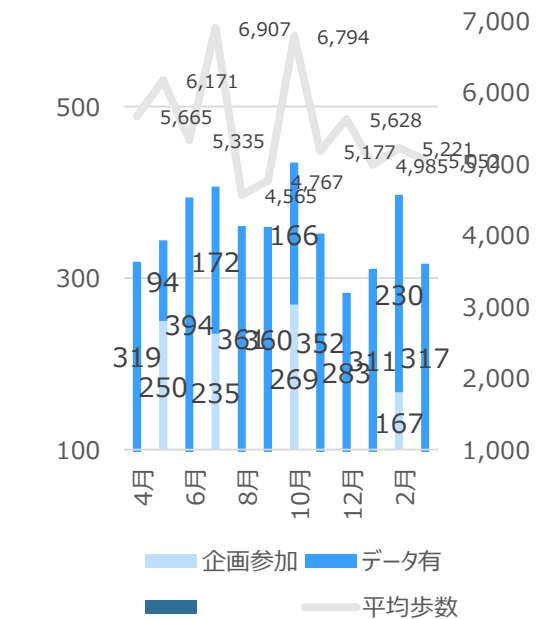
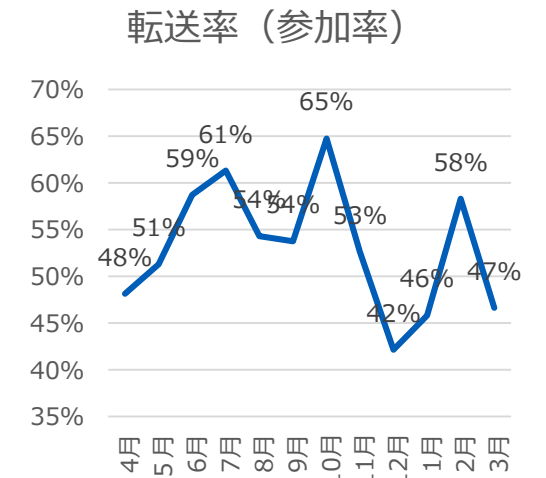
- ・一場所は14日間。
- ・対戦相手は毎日変わる。



- ・血圧・体重・歩数を測定してその日中にデータを転送するとポイントが付与される。



- ・実名表記でモチベーションアップ
- ・個人・部門・任意のチームでのランキング表示。

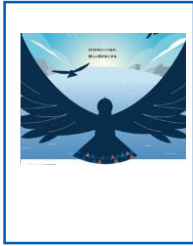




# 社員を巻き込むための効果的な取組み

2017－2020年度で下記4つの効果的な取組みを体系化。2021年度からは自律・主体的参加を目指し、楽しく飽きずに取り組める企画を実行、「測定・行動変容の習慣化」に取り組んでいる。

## 企業理念に基づいた メッセージ発信



事業ミッション  
との連動



トップ  
メッセージ

## 環境づくり



測定推進  
期間



毎月1日は  
血圧測定の日



測定  
ステーション



のぼり



コピー機前やトイレ内に  
ポスター表示

## 組織としての 働きかけ



アンバサダ方針  
取組み共有



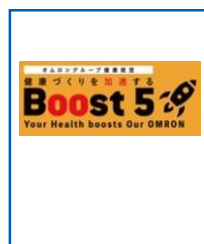
健康経営  
座談会

## きっかけづくり・行動変容支援

### <楽しく美味しく習慣づくり>



ヘルシーメニュー **オムゼロウォーク**



セルフケア  
教育

### <本気プログラム>



各種セミナー



カラダ改造チャレンジ

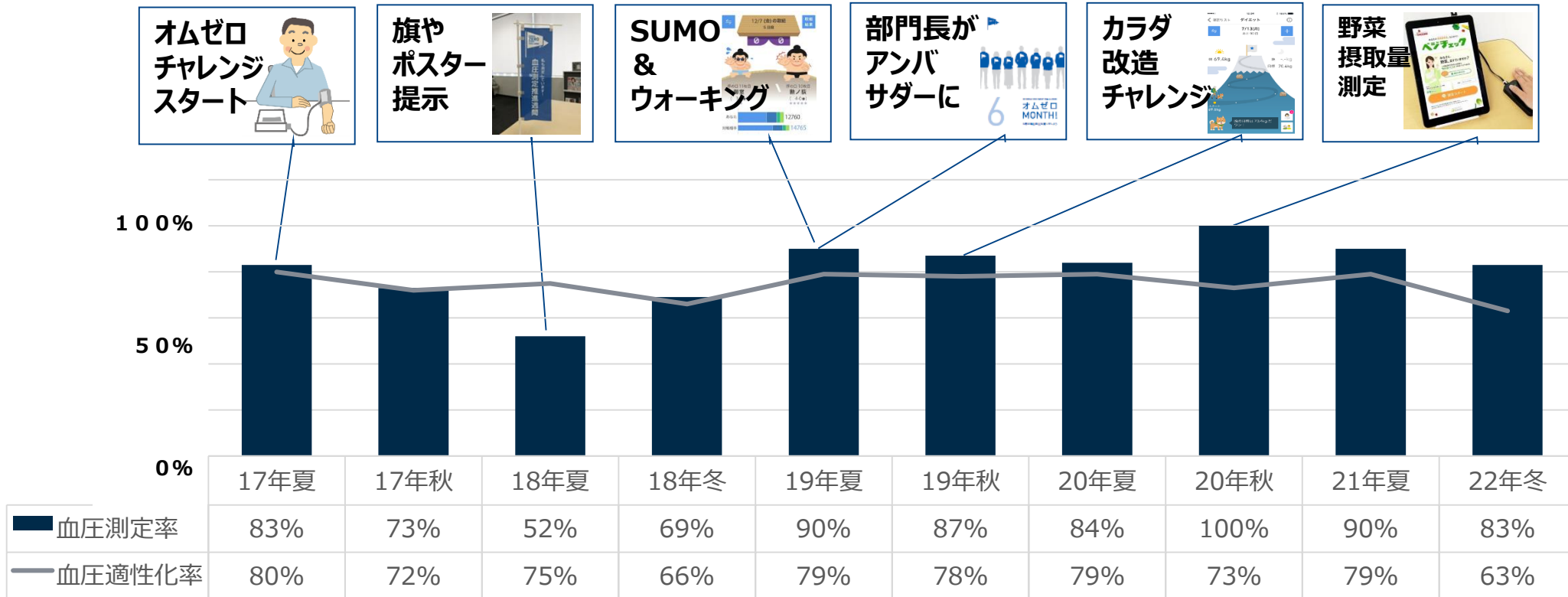


卒煙チャレンジ

# 血圧測定率・適正化率と主な取組み

2017年にオムゼロチャレンジをスタート。年に2, 3回の推進期間を軸に測定を推進  
 これまでの6年間で考え得る限りの施策を企画実行してきた。

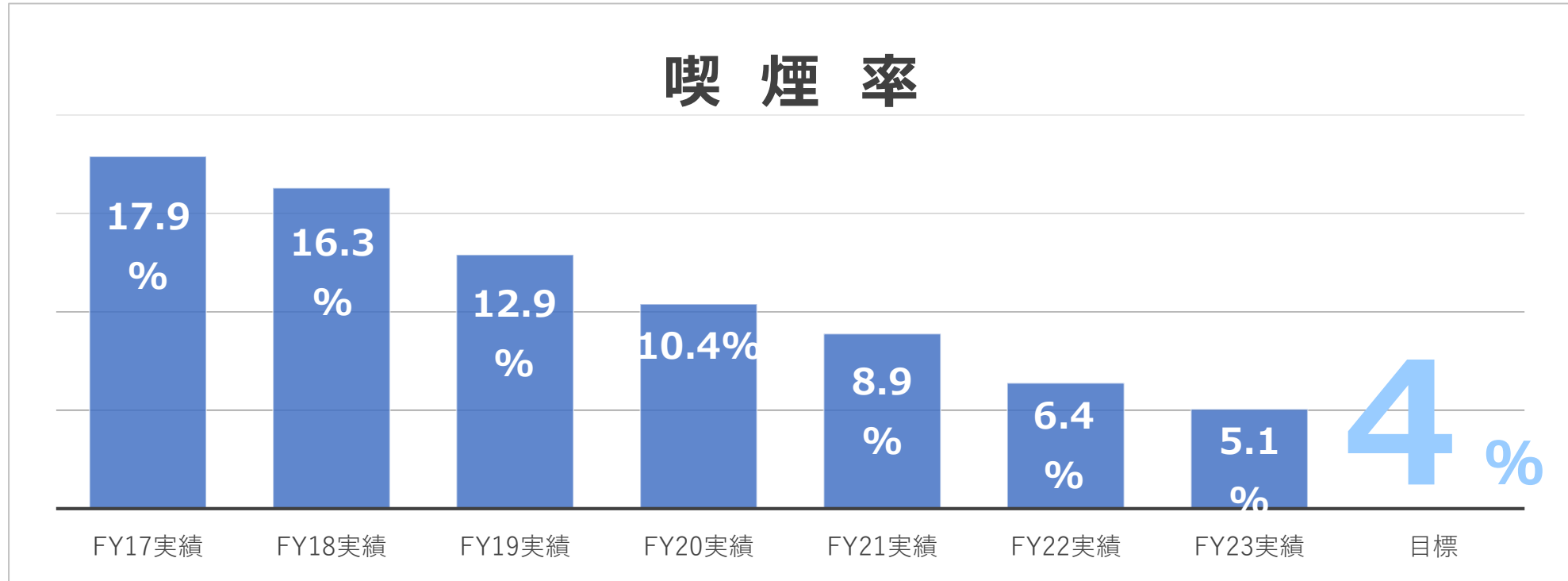
## 測定推進期間の血圧測定率と適正化率



・ ※血圧適正化率 家庭血圧の平均が135/85mmg以下

# 禁煙推進の取り組み

「Going for ZERO」目指す企業として喫煙ゼロを目指し、受動喫煙防止・禁煙推進を実行。



**2018.4**  
敷地内  
就業時間内  
禁煙導入

**2019.10**  
休憩時間含む  
就業時間内禁煙  
就業規則化

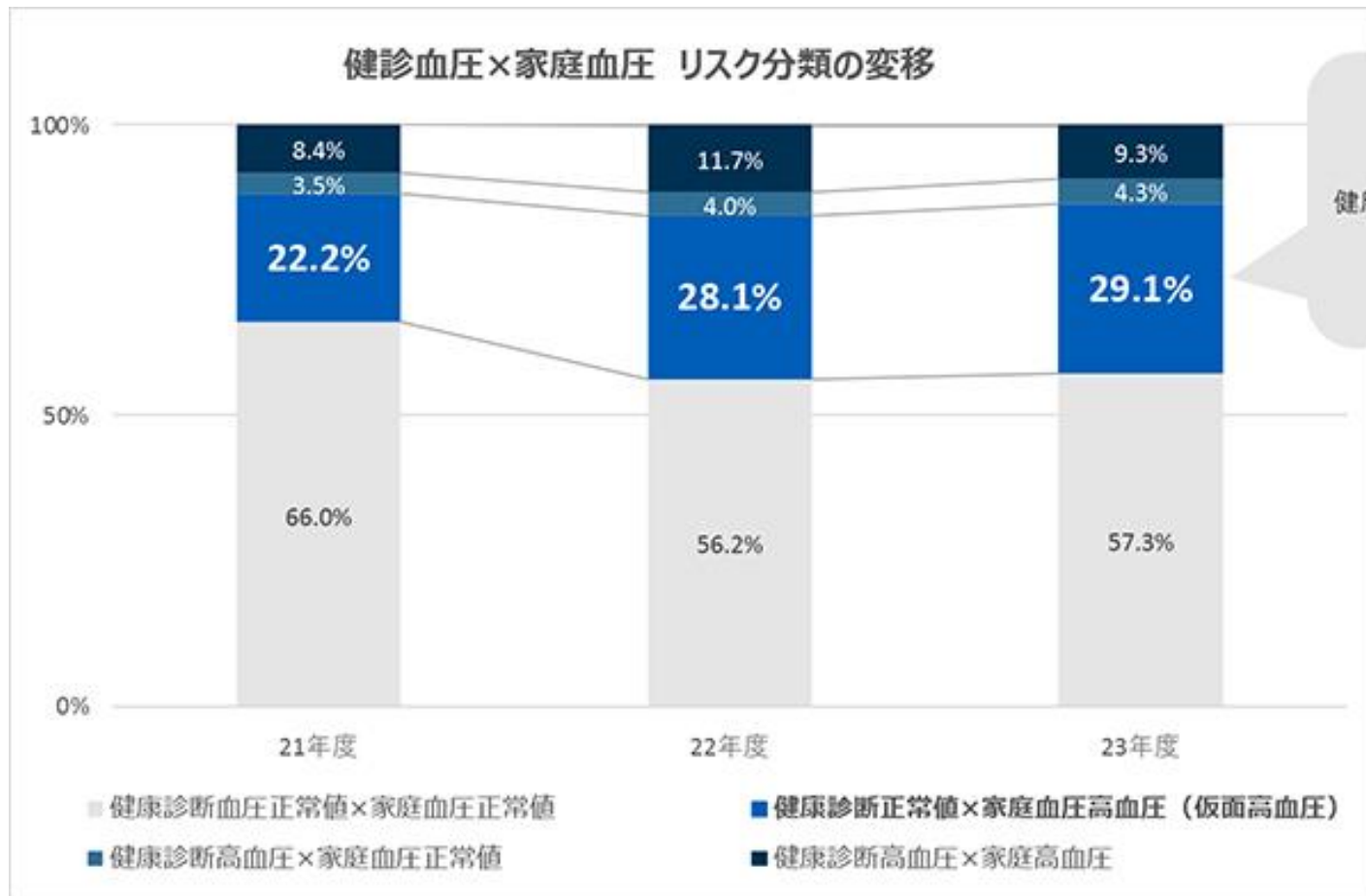


**2019-**  
禁煙推進企業  
コンソーシアム  
参加

**2011-**  
卒煙サポート  
プログラム  
実施

# ゼロイベントの実現

測定の習慣化が何故大切なのか



健康診断での血压 正常 × 家庭での血压 高  
= 仮面高血圧

※仮面高血圧：診察室血圧が正常でも家庭血圧が高い状態  
※健診時正常値 = 140/90mmHg未満、家庭血圧正常値 = 135/85mmHg未満として算出

# TBD 重症化予防プログラム

重篤な疾病を発症するリスクが高い従業員を抽出し、本人にリスクを伝え、参加を呼びかけ、従業員の自分事化を促進。  
仕事との両立可能なオンライン診療で従業員が参加・継続しやすいプログラムを整備。

## 課題① 対象者が自分事化せず参加しない

方針

データによりリスクが高い従業員を抽出し、本人へリスクを伝え、健保・企業から参加を呼びかけ

### ● 大規模DBを用いたアルゴリズム開発

Input

慢性疾患因子17個  
健診情報  
その他レセプト情報

JMDC

保険者DB

Outcome(将来3年間)

- 大動脈瘤（破裂）および解離
- 心不全
- 心筋梗塞
- 脳出血
- 脳梗塞

3年以内に重篤な疾病を発症確率が高い人を抽出するアルゴリズム構築  
(対象者にも、リスクの高さを伝達)

### ● 健保と保健師・人事での呼びかけ

健保からのチラシ



血圧の改善を目的としたオンラインプログラムをスタートします

人事・健保からのメール

2024年11月吉日  
オムロン株式会社  
人事部長 ○○ ○○  
オムロン健康保険組合  
常務理事 ○○ ○○

「高血圧改善による重症化予防プログラム」参加のお願い

具体策

## 課題② 参加しても続かない

仕事との両立等の面で  
従業員が参加・継続しやすいプログラムを整備

### ● オンライン診療及び薬剤配送による心理的ハードルの低減



所用時間は、  
オンラインで1回約15分。  
薬局に行く手間も不要



通院の負担がありません。

### ● 勤務時間中の参加可能による負荷低減

健診結果の事後措置の一環として、  
下記の時間帯から面談日時が選択できます。

平日 火、水、木曜日 11:00-19:00  
休日 土曜日 7:00-12:00



参加についての会社の了承を得ています。

# 取組みの成果

## 健康施策の取り組み状況に関する指標

項目	2021年度	2022年度	2023年度
定期健康診断受診率	100.0%	100.0%	100.0%
ストレスチェック受検率	98.0%	95.9%	96.0%
健康プロジェクト従業員参加率*1	96.4%	94.6%	97.1%
職場の人間関係（偏差値）*2	50.8	50.9	50.4
重症化予防：精密検査受診率	75.1%	82.4%	92.2%
重症化予防：特定保健指導実施率（完走率）	83.1%	90.3%	準備中
年間総実労働時間数	1,907	1,884	1,920

\*\*1オムロン ゼロイベントチャレンジPJ参加同意率

\*250を平均として値が高いほど、職場の人間関係がよいと感じる人が多い状態

## 従業員などの意識変容・行動変容に関する指標

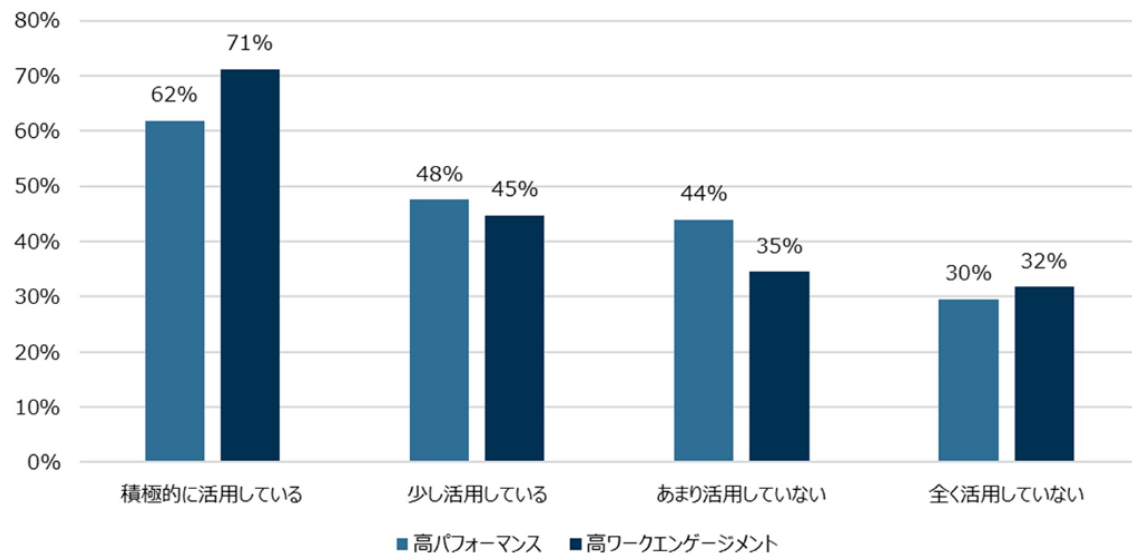
項目	2021年度	2022年度	2023年度
週2回以上の運動習慣者率	45.0%	44.9%	45.1%
平均歩数*3	6,907歩	6,572歩	6,805歩
一日平均睡眠時間が6～8時間	53.2%	53.1%	49.6%
セルフケア教育受講率	99.3%	98.7%	96.2%
適性体重者率	64.6%	66.9%	68.4%

\*3ウォーキング企画開催月の歩数登録者の平均歩数

# 取組みの成果

## パフォーマンス、ワークエンゲージメントとの関連

健康増進策の活用度とパフォーマンス、ワークエンゲージメントの相関関係について分析、施策を活用している従業員ほど高パフォーマンスや高ワークエンゲージメントの割合が多い傾向



## 健康関連の最終的な目標指標

プレゼンティーズムや、ワークエンゲージメントに好影響

項目	2021年度	2022年度	2023年度
パフォーマンス（プレゼンティーズム）*4	70点	69.45点	65.7点
アブセンティーズム*6	98.1点	98.8点	99.2点
ワークエンゲージメント（偏差値）*7	54.0	54.8	54.9
高ワークエンゲージメント者率*8	19.2%	22.2%	22.6%
心理的安全性の向上（偏差値）	53.9	51.1	51.0
企業理念・ビジョンへの共感（偏差値）	56.5	56.2	54.3

\*4 WHO-HPQにて測定。実績値は絶対的プレゼンティーズム（0～100点）の全従業員平均（回答数712名 回答率95.3%）

\*5 2023年度は選択肢変更により、数値は参考値とする

\*6 「出勤できることによるパフォーマンス発揮の伸びしろ」ととらえ、健康問題による1ヶ月以上の欠勤・休業がなかった社員の割合と定義（%）

\*7 ユトレヒト・ワーク・エンゲージメント尺度と相関の高い8項目を用いた独自の調査票で測定。実績値は偏差値で算出（一般平均50、高いほど良好な状態を示す）（回答数715名 回答率95.8%）

\*8 「ワークエンゲージメント」の偏差値が60以上の回答者の割合。12%以上の場合は割合が大き。

健康状態の評価とともに、経営上の視点での評価も併せて実施し、社外公開を行っている。

# PHR（Personal Health Record）を活用した健康経営の取組

PHRを活用した新たなサービス創出が期待されている。

## ヘルスケア産業創出・振興に向けたアプローチ

**需要面** (1) 健康経営の推進（企業が従業員の健康づくりを「コスト」ではなく「投資」として捉え、人的資本投資の一環として推進）



**供給面** (2) PHR（パーソナルヘルスレコード：健康診断結果や日常の脈拍や歩数のデータ）を活用した新たなサービスの創出  
(3) ヘルスケアサービスの信頼性確保を通じた社会実装の促進  
(4) 介護・認知症等の地域課題への対応  
(5) 地域における産業創出  
(6) ヘルスケアベンチャー支援  
(7) 医療・介護・ヘルスケアの国際展開

国民の健康増進

持続的な社会保障制度構築への貢献

経済成長

目標

1 健康寿命を2040年に75歳以上に  
(2016年比+3歳) ※厚生労働省「健康寿命延伸プラン」より

2 公的保険外のヘルスケア・介護に係る国内市場を  
2050年に77兆円に

3



# 令和6年度健康経営度調査票

PHRの活用促進が調査票へ反映

## 令和6年度 健康経営顕彰制度

## 令和6年度 健康経営度調査票（抜粋）

### （1）改訂のポイント

- 今年度施策の方向性を踏まえ、健康経営度調査及び申請書においては、下記事項を改訂する。

<h3>1 健康経営の可視化と質の向上</h3>	<p>【大規模】PHRの活用促進（新設）</p> <p>【大規模】40歳未満の従業員に関する健診データの提供</p> <p>【大規模】質の向上に向けた意識醸成（配点バランスの修正）</p> <p>【大規模】柔軟な働き方の促進（小項目追加）</p> <p>【中小規模】プライム500申請法人フィードバックシート公開</p> <p>【中小規模】新たな顕彰枠の拡大</p>
<h3>2 新たなマーケットの創出</h3>	<p>【大規模】海外法人を含めた健康経営推進に関する実態把握（アンケート）</p>
<h3>3 健康経営の社会への浸透・定着</h3>	<p>【大規模】育児・介護と就業の両立支援（設問分離）</p> <p>【大規模】常時使用しない非正社員等を対象に含めた企業の評価（新設）</p> <p>【大規模】若年層からの健康意識の啓発 プレコンセプションケア（アンケート）</p> <p>【中小規模】小規模法人への特例制度の導入（認定要件緩和）</p> <p>【中小規模】健康宣言事業未実施の国保・共済組合等加入法人への対応</p>

※【大規模】については令和6年度健康経営度調査を改訂予定  
 【中小規模】については健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）認定申請書を改訂予定

14

\* 経済産業省 健康医療新産業協議会 第12回健康投資WG 事務局説明資料（令和6年7月23日）

Q43. 従業員のヘルスリテラシー向上のための取組として、アプリやブラウザ上で従業員が自身のPHR（健診情報やライフログ等）を活用できるサービスを導入するなどの環境整備を行っていますか。（それぞれの「整備の状況」欄に該当する選択肢番号を入力）

- ◆第12回健康投資ワーキンググループ資料にて、PHR活用の考え方について記載しておりますので、ご確認ください。  
[https://www.meti.go.jp/shingikai/mono\\_info\\_service/kenko\\_iryu/kenko\\_toshi/index.html](https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/kenko_iryu/kenko_toshi/index.html)
- ◆本設問は法人が従業員のPHRを、個人が特定できる状態で取得することを前提としたものではありません。
- ◆個人情報保護法に準って適正に取り扱う必要があります。
- ◆環境整備は、貴法人もしくは健康保険組合が費用を負担した上で、従業員のサービス利用を促す取り組みを行うことを前提としています。

対象となるPHR:	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 健診結果のみを取り扱うサービスを導入している</li> <li>2 ライフログのみを取り扱うサービスを導入している</li> <li>3 健診結果・ライフログの両方を取り扱うがそれぞれ別のサービスで導入している</li> <li>4 健診結果・ライフログの両方を取り扱うサービスを導入している</li> <li>5 導入していない</li> </ol>
-----------	---

整備状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>a PHRが記録・閲覧できるサービス等を従業員に提供している</li> <li>b PHRに基づき健康増進につながるアドバイス・提案を行うサービス等を従業員に提供している</li> <li>c 従業員の健康増進に資する行動を促すため、PHRを活用した社内イベントやインセンティブを与える取組を実施している</li> </ol>
------	--

SQ1. (Qのいずれかで1~4とお答えの場合) 従業員に提供しているPHRサービスについて、契約の際に、サービスを提供する事業者が個人情報保護方針等の規定を含めた情報セキュリティ対策を実施しているか、確認していますか。(ひとつだけ)

1 行っている	2 行っていない・わからない
---------	----------------

SQ2. (Qのいずれかで1~4とお答えの場合) PHRを個人が特定できないよう集計された状態で、サービスを提供する事業者から受け取り、その集計データを分析することにより部署ごとや会社全体としての健康状況を把握した上で、健康課題の抽出や健康経営の取組評価を検討することができるようにしていますか。(ひとつだけ)

1 受け取っており活用もしている	2 受け取っているが活用していない
3 受け取っていない	

# 健康経営や職域におけるPHRの活用を目指した取組

PHRサービス事業協会（PSBA）

## (参考)企業の課題意識と対応への動き

- 健康経営推進度や企業規模に関わらず、PHRを健康経営に活用したい企業は多いが、企業規模が小さいほど実際には活用できていないのが現状。また、データ取得に関しては、個人情報に係る法規制や従業員の同意取得との向き合い方に課題を感じる企業も多い。
- PHRの活用には、データの標準化や個人情報保護、同意取得の在り方等のルールを整備していく必要がある。こういった状況を踏まえ、今年7月に多様な業種の事業者で構成されるPHRサービス事業協会が設立され、PHR利活用に向けた事業環境整備に向けて動き始めている。

図表 8 データ利活用の現状と健康経営推進度別の特徴

データ利活用の関心	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康経営推進度や企業規模を問わずデータ利活用の関心は高い（全体86%）</li> <li>業種別の活用割合ではDXの取組推進状況の業種別傾向と概ね一致する「健康情報」に関することのみではなく「デジタル技術」/「デラシー」向上の支援が必要であると推察される</li> </ul>
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康経営推進度、企業規模問わず「保健指導」への活用意向が最も高い</li> <li>健康指導の対象者は健診所見者・高ストレス者（約80%）、長時間労働者（約60%）</li> <li>「ライフログの計測機器」や「健康管理アプリ」等のサービスに対する活用意向が低い</li> <li>自社内に産業保健スタッフが所属する企業は先進企業を極めて少ない</li> <li>健康関連データの健康指導への活用にあたり、<b>外部専門職を活用</b>するケースを踏まえる必要性が示唆される</li> </ul>
活用データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>（健康経営への活用を目的とした）健診データの取得割合が高い</li> <li>（健康経営への活用を目的とした）ライフログの取得割合が低い（15%程度）</li> </ul>

### 健康経営推進度別の特徴

推進度（高）	推進度（低）
<ul style="list-style-type: none"> <li>取組のPDCA、健康指導の高度化を目的に複数種類のデータを活用</li> <li>人事労務管理データを取組活用している</li> <li>計画策定や施策評価時（PDCA）への活用意向が強い</li> <li>セルフケアの促進への活用よりもハイリスク者の抽出への活用意向が強い</li> </ul> <p>（背景要素）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営層、管理職、専門職との関与が強い</li> <li>健康経営を経営戦略に位置付けている</li> <li>関係部署との連携がされている</li> <li>経営計画・予算編成に専門職が関与している割合が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康指導の高度化を目的とした健診データの活用意向</li> <li>関心は持っているが活用していない</li> <li>健康指導への活用意向が強い</li> <li>健診データの取得割合が高いが活用できていない</li> <li>ストレスチェックデータの取得割合が低い</li> <li>新たなデータ活用の意向が全般的に低い</li> <li>施策評価におけるデータ活用意向が高い</li> </ul> <p>（背景要素）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康経営は福利厚生に位置付けている傾向がみられる</li> </ul>

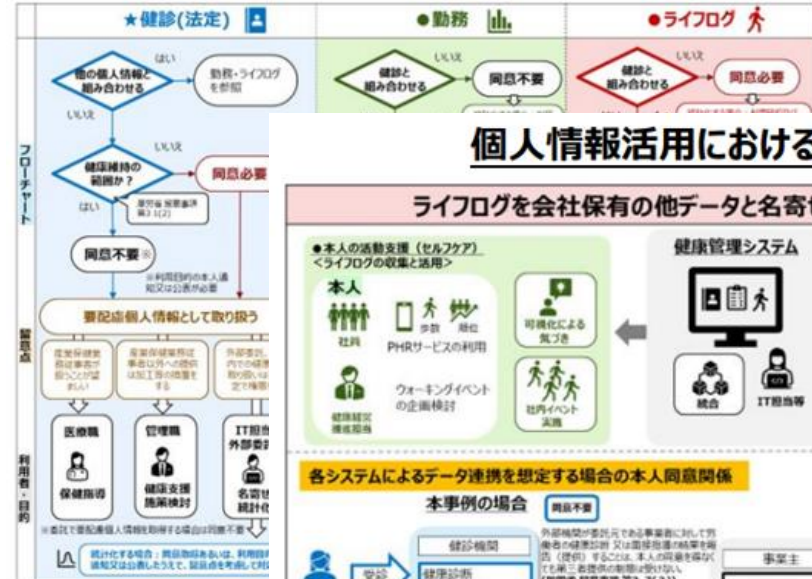
出所：2023年7月 長寿産業連合会WG2報告書「Well-being societyの実現に向けたデータ利活用による健康経営の実践 - 従業員の健康関連データ利活用の実践及び実態調査を踏まえたデータ利活用の基本ユースケース -」



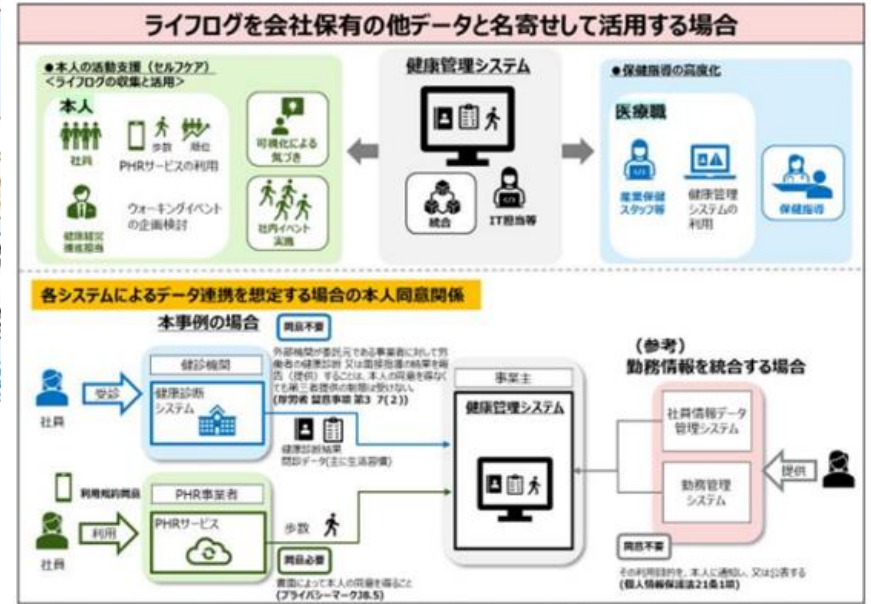
27

健康長寿産業連合会 健康関連データの活用推進WG

## 本人同意の要否（フローチャート）



## 個人情報活用における対応例



Well-being society の実現に向けたデータ利活用による健康経営の実践  
 - 「従業員の健康関連データ利活用の実践事例集の作成」及び「データ利活用に係る本人同意取得等に関する調査」 -  
<https://www.well-being100.jp/news/20240710635/>

# 健康関連政策の経緯とデジタルの変遷、弊社取組み

OMRON

図 ライブ配信のみ

1998



2005

ヘルスケアフロンティア  
ジャパン  
(損保ジャンパン様 JV)

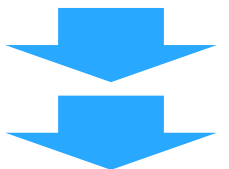
2010

WellnessLINK

2012

docomo  
HEALTHCARE  
(NTTドコモ様 JV)

2016



OMRON

# 健康経営アライアンス

社員の健康を通じて日本の活性化と健保の持続可能性の実現することを目指すコンソーシアム

健康経営アライアンスは、健康経営を実践する企業を主体に、経営インパクト実現、市場創造を目的とした活動。



健康経営  
アライアンス



## 代表幹事企業 現在全427社 (10月現在)

 味の素株式会社	 SCSK株式会社	 オムロン株式会社
 キリンホールディングス株式会社	 株式会社島津製作所	 株式会社JMDC
 日本生命 日本生命保険相互会社	 株式会社野村総合研究所	 三井住友銀行 株式会社三井住友銀行

ヘルスデータプラットフォームを活用した企業向けのソリューションを、JMDC様と開発、提供予定

社員のQOL向上と経営に大きな損失を与える疾患領域での予防ソリューションを開発し、健康経営アライアンスに貢献する		
	社員・経営ニーズ	事業概要
高血圧 重症化予防	高血圧由来の脳・心血管の重症疾患発症を未然防止	ハイリスク者スクリーニング+遠隔診療サービス 健診・レセプトデータと、将来的には血圧等バイタルデータによるハイリスク者スクリーニング及びハイリスク者向け遠隔診療 サービスの提供
女性向け健康支援 (フェムテック)	女性の健康課題に起因するプレゼンティーズム、アブセンティーズムの改善	“女性の”健康支援サービス セミナーを通じた啓発から、基礎体温管理アプリ、セルフケア/遠隔診療サービスまでをワンストップで提供することで女性の活躍を支援
メンタルヘルス 予防・改善支援	メンタル不調に起因するプレゼンティーズム、アブセンティーズムの改善	“心の”健康支援サービス ストレスチェック・パルスサーベイ等によりリスク保有者を早期発見し、睡眠データを活用したメンタルリスク介入ソリューションを提供



<https://kenkokeiei-alliance.com/>

\* 健康経営アライアンス®は、オムロン株式会社の登録商標です。

ご清聴ありがとうございました